

シンガポール便り 2 1 1

2017年12月7日 三好 隆志

香港6

香港に来たら観光客が必ず訪れるのが、超高層ビル群や夜には100万ドルの夜景が見られる海拔373mの（Victoria Peak）です。この山は、香港島の中では一番高いようで、標高が552mあります。展望できるエリアは山の頂上ではなく、少し下がった所に位置しています。そこに行くのは『ピークトラム（山頂車）』が有名で終着駅には、展望台のある『ピークタワー』やショッピングモールの『ピーク・ギャレリア』などがあります。ただし、平日でも大変な人気で、私が訪れた時もすごい行列でした。多分1時間以上待つようだったため、やむなくタクシーで上がりました。展望台からは素晴らしい景色が眺められましたが、驚いたのは日本人学校でこの山を巡るマラソン大会をしていたことがあったということです。森林浴にもなり、素晴らしい思い出になったことでしょう。

次に、香港島と九龍半島とはビクトリア・ハーバーという海峡で隔たっています。海底トンネルは3本あって、自動車は300円くらい通行代が必要だそうです。私は、昔ながらのフェリーでも渡ってみました。それは、「スターフェリー」と呼ばれる100年以上の歴史をもつ船です。これは、交通手段としてのみならず、昼も夜もビクトリア湾の絶景を楽しむことから、観光客に絶大な人気を誇っているそうです。たった10分もかからない短いクルージングですが、海に出て香港の摩天楼や自然とのコントラスト、ビクトリア湾を行き交う船をのんびりと眺めることができ、香港の魅力をたっぷり感じることができました。値段も30円ほどと激安でした。

さて、夜景ですが山から見る超高層ビル群以外に、レーザーショーというものがあります。これは、山からは見えません。このショーは、“15年間という世界で最も長い期間継続されている、大規模な光と音のショー”としてギネスに認定されているそうです。毎晩8時より13分間開催されていて、超高層ビルから音楽に合わせて色とりどりのレーザーが放たれ、ビルのイルミネーションが点滅します。ビクトリア・ハーバーに面した遊歩道から香港島側を180度見渡せるので絶好のスポットのようですが、無料なので席取りが大変のようです。そこで、ホテルのラウンジから鑑賞することにしました。ホテルは、インターコンチネンタルが1番目の前にありましたが、1階からの眺めだったため19階の上から見渡せるシェラトンにしました。ゆったりと落ち着いて光のショーが見られるのは素晴らしいです。ちなみに、ホテルのレベルはシンガポールと同じようでした。ハーバーグランドというホテルでランチビュッフェをしましたが、牡蠣や蟹など見事でした。ペニンシュラというホテルも格調高く良かったです。地方都市では味わえない贅沢です。



シンガポール便り 210

2017年12月5日 三好 隆志

香港5

私は、自動車が大好きなのですが、アメリカの電気自動車を日本で見たことはあまりありません。岡山では1台だけでした。それは、価格が1000万円と非常に高いからです。逆にプリウスが爆発的に売れるのは、プラグインハイブリッド車でも400万円くらいで買うことが出来るからです。ところが、香港では滅多やたらにテスラが走っていました。そこで、なぜ香港に高級電気自動車のテスラが多いのか考えてみました。まず、富裕層が多いからだということです。資産が30億円以上の富裕層が、香港では約4000人もいます。それが、シンガポールでは約2500人で東京は2000人となっていました。ちなみに最高はニューヨークの約6000人だそうです。確かに、富裕層が多いようです。写真のように、最高級車ロールスロイスの販売店も初めて見ました。次に、走りやすい環境です。充電器を置いたサービスポイントをよく見ましたし、香港は狭いためエネルギー切れの心配が少ないわけです。最後に価格です。政府が、税金を免除しているため車両価格の1000万円だけでよいからです。同じ車格のMercedes E 200が車両価格は900万円ですが、税金を含めると1500万円にもなってしまうのです。ガソリンよりも電気の方が安いからです、維持費も安いテスラが売れるわけですね。

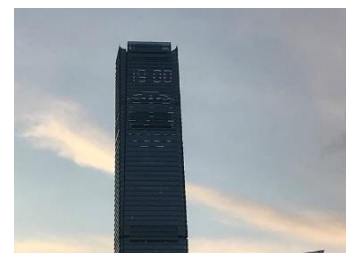
さて、次は香港の摩天楼が並ぶ中心部です。1番高い超高層ビルはInternational Commerce Centerです。九龍にある地上118階建484mのビルです。これは、2017年現在世界第5位の高さだそうです。上の方に時計の電光掲示をしていました。2番目はTwo International Finance



Centreです。こちらは、香港の経済の中心地である香港

島・中環 (Central) に聳え立つランドマークタワーで地上93階建416mあります。シンガポールで1番高いのは、280mのOUBセンタービルなど同じ高さのビル3本ですから、香港の方が相当高いことになります。また、ビルの本数も多かったです。シンガポールでも、1980年頃から超高層ビルの高さ競争が始まったようですが、政府は調整に乗り出し航空管制上の

安全性を考えて、ビルの高さの限度を定めたそうです。その制限の高さが280mです。実は、中華系住民が多数のシンガポールでは風水や数字のこだわりがあります。28は中国語で「アーシパ」と言って、「容易に繁栄する」という意味に繋がる発音なのだそうです。中国人ビジネスマンが最も縁起の良いと喜ぶ数字の28というラッキーナンバーが高さの限度に決定されたので、みんなが納得して同じ高さのビルになったということでした。いずれにせよ、固い岩盤と地震のない香港やシンガポールでは超高層ビルも良いのですが、地震国日本でたくさんの超高層マンションが林立するのを見ると、少し心配になります。



シンガポール便り 209

2017年12月2日 三好 隆志

香港4

シンガポールの MRT では、駅構内にトイレがありません。一度改札口を出て近くのトイレを利用することになります。トイレどころか、キオスクなどの売店も一切ありません。ところが、香港では写真のようにセブンイレブンなどの売店やトイレも日本と同じように駅構内にもありました。

右の写真は、ミニバスの車内です。運転手横の電子掲示の数字は、スピードメーターのようでした。つまり、制限速度を守っているかどうか乗客に見守ってもらうということでしょうか。ただし、渋滞が多い香港の道路では、あまりスピードを出せる道はなかったです。

日曜日に街に出かけますと、メイドさんがたくさん集まる場所がありました。香港もシンガポールと同じように、ほとんどフィリピンやインドネシアから来ているようです。給料も7万円くらいで同じレベルです。セントラルという繁華街の広場や、写真のような安い服などを売るモールではメイドさんでゴった返していました。共稼ぎ家庭が多い香港でも、ある程度収入のある家庭ではほとんどメイドさんを雇っているようです。

香港では、ショッピングモールにはよくデパートが入っています。イギリスの統治が長かったことから、イギリス系のマークス&スペンサーが各所に出店していますし、ローカルのウェンオンやシンシアー、レーン・クロフォードなども地元では人気があるそうです。西武やそごうといった日系のデパートもありました。しかし、家賃が高く採算が厳しいので現在では撤退し地元資本になっているようです。写真はそごうですが、漢字で崇光と書いてありました。

最後は、レストランです。右の写真が一般的なレストラン、左はホーカーセンターです。一般的なレストランでも値段はリーズナブルですし、ホーカーセンターは激安です。味も、シンガポールの中華料理より油っぽくなくて美味しいです。そして、お茶が健康に良いと言われ、何杯もついでくれました。確かに、肥満傾向の人が少ないように思いました。また、ビールが安いのも驚きました。ホーカーセンターでは、缶ビールが何と100円ちょっとで飲むことができました。スーパーでは、30円くらいで売られているそうです。料理の食べ残しをテーブルに積み上げる習慣も驚きました。テーブルクロスごと捨てるそうです。



シンガポール便り 208

2017年11月30日 三好 隆志

香港3

シンガポールの乗り物について紹介します。まず、香港のタクシーは日本の中古車を使っているらしくて、シンガポールとは違い古い車が多いです。料金は、日本の60%くらいでシンガポールより少し高いレベルでした。チップは、1割程度渡しました。ただ、MRTやバスが安くて便利がいたため、あまり乗る機会はありませんでした。タクシーの後ろに見えるのはミニバスです。16人+運転手の17人乗りで、満席だと止まってくれません。料金は100円程度で安いのですが、だいたい均一料金ですから、たった300mの次のバス停でも5km離れた所でも同じでした。ただ、押ボタンがないため、運転手に広東語でそれを伝えることが必要になります。次に、MRTです。バスと同じくオクトパスカードというICカードで乗ることができます。車内の座席はツルツルのスチール製で、シンガポールのプラスチック製と違い珍しく感じました。駅のホームには、日本と同じように広告がたくさん掲示してあります。中には、日本の風邪薬のようなものもありました。そういえば、香港は空気が悪いということを知っていましたが、実際は青空が見られ特に大気汚染は無かったです。また、マスクをした人もほとんど見かけませんでした。乗り物の最後はトラムです。岡山にもある路面電車ですが、全て2階建です。しかも、料金は2ドル均一です。香港ドルは15倍すれば日本円に換算されますから、約30円と超格安運賃です。場所は、香港島の北側・堅尼地城（ケネディタウン）とシャウケイワンの間を走っています。線路沿いにある停留所で待っていれば、次々にやってきます。デザインを見ているだけでも楽しくなります。停留所は、200メートル間隔ぐらいにあるので、ゆっくりと市内見学ができます。ただし、エアコンはなくて窓を開けて走っていました。

さて、このような乗り物を利用して行く所ですが、まずはこちらは女人街（モンコック）です。20mくらいの道幅の両側にぎっしり露店が連なっています。常に人でごった返しているそうです。このマーケットでは、女性向けのファッション、バッグ、アクセサリー、日用品や雑貨がメインで売られています。その他にも、子供服やおもちゃ、キャラクターグッズなどが売られています。値段は交渉で決まります。写真のようにスーツケースで爆買をしている中国本土からの客をよく見ました。



シンガポール便り 207

2017年11月27日 三好 隆志

現地校2

シンガポールの特別支援学校を見学しました。シンガポールには 20 の特別支援教育学校に約 5000 人の生徒が在籍しています。こうした学校は NGO に運営されています。そして、運営費用は教育省と全国社会サービス委員会から提供されているそうです。また、普通学校でも広汎性発達障害の生徒など約 7000 人が在籍していて、取り出し指導などを行っているそうです。

今回訪問した MINDS は、1962 年に設立されたシンガポールでも歴史のある特別支援学校です。キャンパスはエリア別に4つあり、私たちはシンガポール北部 Woodlands 校を訪問しました。ここは、2009 年にできたそうです。生徒数は約 230 人で、4 校全体では約 830 人だそうです。クラスは、障害のレベルによって4つに分けられています。まず、7～12 歳の児童は担当が 1 人で定数は 8 人となり全教科を指導します。13～18 歳の生徒は担当が 1 人で定数は 10 人となり主に職業訓練を行います。次に、知的に重度の児童生徒は、担当が 2 人で定数は 6 人になります。服を自分で着るなど自立や生活単元の学習をします。最後に、自閉症のクラスでは同じく担当が 2 人で定数は 6 人です。主に、視覚的な教授法により、カードやスケジュールなどを理解していきます。2018 年からは、IQ 55 以下の子どもを対象とする学校になるそうです。学校目標は、学校の環境を社会と統合し、自立をめざすということで、「SMILE」で表現される以下の点です。

S - Strength of Character 個性

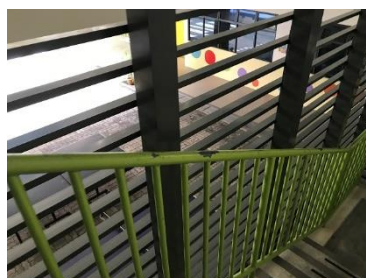
M - Mutual Respect and Understanding 相互理解

I - Integrity 誠実

L - Lifelong Learning 生涯学習

E - Excellence 優秀

職員については教師は特別免許が必要で、他にソーシャルワーカーや心理学者、セラピストなど多くの人材が教育に関わっているそうです。また、普通学校からも特別なニーズの児童生徒の増加により、多くの教師研修を受け入れているそうです。施設を見て回ると、体育館には自由時間の過ごし方を学習するためのボルダリングやテーブルゲームなどが置かれていました。また、校庭には横断歩道が描かれ、交通ルールを学習する場となっていました。階段には、転落防止のためフェンスに覆われていて驚きました。写真のように日本の昔遊びを一緒にして交流を図りました。





シンガポール便り 206

2017年11月25日 三好 隆志

現地校1

シンガポール日本人学校中学年が交流している現地校のテマサク小学校を見学しました。テマセク校は、児童1500人、教員100人からなる学校です。この人数は、シンガポールの小学校の中でも、かなり大規模だと話されていました。ほとんどの子どもは2Km 圏内から通学していますが、ウッドランドやブンゴルのように、片道1時間くらいかかる遠い所から通っている子もいるそうです。それは、特に学区が定められていないからです。学校時程は、基本的には7:30~13:30ですが、補習が必要なお子さんに関しては、extra として1または2時間の補填がなされるようです。(~16:00まで) また、特別な支援が必要な児童の対応として、テマセク校には特別支援担当の先生が2人おり、必要に応じて取り出し指導を行える態勢が取られていることも話されていました。

この学校で特に目を引いたのは、CCA (クラブ活動) の時間に使用するために、LEGO と提携して教育環境を整えている教室です。児童が使う LEGO キットだけではなく、3m を超える柱や作った模型をその場で走行させることのできる地面など、この教室にいるだけでわくわくした気持ちがこみ上げてくる場所でした。この部屋では、

- ① LEGO をパワーポイントで指示される通りに組み立てる。
- ② 組み立てた LEGO に iPad でプログラミングを施し、自分の思うように動かす。
- ③ 上手くいかなかったことの原因を探り、再度組み立て&プログラミングを行う。

といった順で学習を進めていくことができ、子どもが自発的に学習に向かえるように、学習環境が整えられていました。

さらに、授業参観もさせてもらいました。1年生の音楽、2年生の体育、3年生の算数とグループに分かれて授業を参観しました。1年生の音楽では、ハワイのフラダンスを映像を見ながら一緒に踊っていました。3年生の算数では、卓上カレンダーのようなものを使って全ての児童に表現できる機会を与えたり、ホワイトボードを使って隣の児童と交流する機会をつくったりと、教師から一方的に教えるということにならない工夫を凝らして授業を行っている様子が伺えました。下の写真は、トランポリンです。30台くらいありましたが、上手にコンパクトにして片付けていたのに感心しました。子どもたちは、私たちに対してフレンドリーで、のびのびと明るかったです。



図工作品



キャンティーンや教室



シンガポール便り 205

2017年11月22日 三好 隆志

香港2

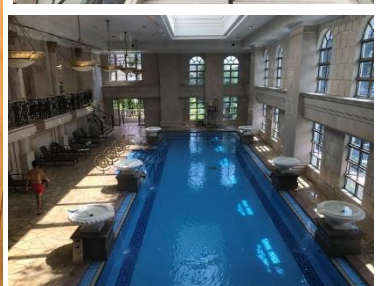
香港には友人がいるので、あつかましくもマンションに泊めてもらいました。それが、シンガポールと比べて巨大なマンションだったので驚きました。シンガポールでも、郊外に出ると何棟も集合したマンションが多くなりますが、写真のように40階建といった高層ではありません。せいぜい20階くらいです。我が家も15階建で10棟あります。そして、造りも豪華です。入口から何百万円もするようなシャンデリアが迎えてくれて、まるで高級ホテルです。また、セキュリティーが全体玄関の入口と出口、各棟の入口と3カ所もいてドアの開閉をしていました。入るためにはセキュリティーカードも必要ですから、何重にもガードしているわけです。

さて、友人の部屋は39階だったと思いますが、エレベーターに入ったらまたまた驚きました。40階台がごっそりなくて39階の次は50階になっているではありませんか。香港では、4のつく階はなくしていることがよくあるそうです。それは、縁起が悪い数字だからだそうです。他にも13階がありませんでした。それで、60階フロアと思っても、階数は43階だったりします。友人の39階は実際では34階になるのだと思います。そういえば、シンガポールでも風水によって建物を造るということはよく聞きました。

豪華な造りとしては、普通のプール以外に写真のような室内プールがあったのにも驚きました。平均的な家賃は、シンガポールよりもまだ高くて、80平米前後の3LDKで月約60万円だそうです。高級マンションや都心部になると、100万円以上になってしまいます。しかも、管理費として毎月5万円くらいを払わないといけないそうです。

ところで、香港の写真を見るとよく霧が出ています。実は、夏場の湿度はほぼ100パーセントだそうです。だから、写真のような除湿器が置いてありました。確かに、帰宅してみるとたった1日で器にほぼいっぱい水が溜まっていた。服のカビにも気を付けないといけないそうです。夏場は、暑さだけでなく湿気対策としてもエアコンが付けっぱなしにすることが多いそうです。

最後に、右の写真は各フロアにあるゴミ捨て用バケツです。香港では多くのマンションが24時間好きな時にゴミを出すことができるそうです。残飯やプラスチックやアルミ缶や紙くずなど、電池や自転車など何でも置いておけばいいのだそうです。各フロアを清掃の係員が、巡回して集めて回るそうです。しかし、ゴミの増加や処分場の不足によって、近年徐々にリサイクルや分別化に取り組む方針だそうです。



シンガポール便り 204

2017年11月20日 三好 隆志

香港

旅行で見てきた香港のレポートです。まず、シンガポールと香港は4時間弱の旅になります。今回は、ユナイテッド航空を利用しました。朝の6時に出発して10時に到着です。LCCの格安航空だと2時間くらいまでなら大丈夫ですが、それ以上になるとエコノミー症候群などが心配になります。今回は、テレビや食事もあって何と往復2万円でした。香港とシンガポールの時差はありません。季節も、夏だと同じような気温です。ただ、香港は亜熱帯でシンガポールは熱帯ですから、一番暑い時は香港の方が厳しいようでした。



さて、香港国際空港は、さすがに立派な施設でした。実は、以前の空港は市街地中心地に近い九龍にありました。高層ビル群すれすれの高さを飛行して滑走路に着陸する通称「香港アプローチ」が知られていて、操縦には高度な技術が要求されたそうです。もちろん、騒音問題もありました。そこで、九龍半島の西に関西空港のような埋立地を作って、1998年新たに香港国際空港として開港したわけです。2015年には、年間乗降者数約6,800万人でドバイ国際空港、ロンドンのヒースロー国際空港に次ぐ世界第3位、貨物取扱量においては世界第1位という世界屈指のハブ空港になっているわけです。空港から市街地までは、バスやMRTで30分あまりです。



さて、まずバスですがシンガポールと同じように2階建です。しかも、値段も同じように安いのに豪華です。MRTは、写真のように座れることはまずなくて、ほとんどが混んでいます。シンガポールでは、路線によっては空いていることがあります。これは、人口の差だと思います。香港の方が人口が多く、その割に市街地の香港島北部と九龍半島南部に人口が集中しているから、よけい混雑するのでしょう。どこに行ってもシンガポールより人が多いなあというのが最初の印象でした。路線の数は、シンガポールと同じくらいでした。ICカードを使用することも同じでした。あと、エスカレーターでは右側にみんな立っていました。これは、シンガポールや他の多くの国とは逆だと思います。早さは、シンガポールの方が早いと感じました。

シンガポール便り 203

2017年11月17日 三好 隆志

① セントーサ島

セントーサとは、マレー語で「平和と静けさ」という意味だそうです。1970年代以降、シンガポール政府が島を観光開発し、一大リゾート地へと変貌を成し遂げました。例えば、水族館の中にある大パノラマ水槽「オープン・オーシャン」。幅36メートル、高さ8.3メートルもある世界最大級の海洋水槽です。また、セントーサ島では2010年にカジノとユニバーサルスタジオがオープンしました。そのため、来島者は2009年の610万人から、2016年には1950万人と3倍以上に増加しました。今後も近くの島のリゾート開発や若者向けアクティビティの充実化などを図って開発を進めていくそうです。



② 海外勤務

昔は、日本で仕事がないから海外で働き、ついでに英語ができるようになりたいと考える人が多かったと思います。ところが、シンガポールでは海外からの労働者によってシンガポール人の雇合が奪われているとの不満が高まっています。そこで、政府は就労ビザ最低給与額を今年7月から大幅に引き上げました。2011年には2500ドルくらいだったものが年々上昇し、倍くらいになったのです。具体的には、東大や早稲田など有名国立私立大学卒業で新卒3600ドル、50歳5900ドルです。また、高卒や専門学校卒の場合は、新卒6500ドル、50歳7300ドルです。偏差値の高い大学の方が基準額が低くなっているのが不思議な点です。つまり、専門的な知識をもつ優秀な人だけを求めているということになります。だから、英語が話せる日本人だというだけでは日系企業に就職できるわけではなくなっています。また、Sパスと言われる月額2200ドルと通常の就労ビザより非常に低いものは、シンガポール人の雇用人数に応じて企業ごとに若干数割り振られていて4年制大学卒業以外の外国人に与えられます。当然、生活は非常に厳しいものになります。シンガポールでは、このほかに、ワークパーミットという低賃金で働く、単純作業労働者のビザがあります。これは、バングラディッシュやインドなどから来ている労働者のことで、右の表のように外国人労働者の大多数になりますが、日本人はいません。

シンガポールにおける外国人労働者数の推移

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
EP	173,800	175,100	178,900	187,900	192,300
Sパス	142,400	160,900	170,100	178,600	179,700
ワークパーミット	942,800	974,400	991,300	997,100	992,700
その他のワークパス	9,300	11,300	15,400	23,600	28,300
合計	1,268,300	1,321,600	1,355,700	1,387,300	1,393,000

出典:MOM

③ グローバル時代の人材

グローバルに活躍していくためには、何が必要でしょうか。それは、「本質を理解し、短い言葉で分かりやすく話すことができる」という能力です。常に、問題の本質を考えたり、今何をすべきかを考えるたりすることが大切です。海外での生活は、それ自体がストレスで苦労はありますが、様々なアドバンテージもあります。その国の文化や言語や世界観を、身近に感じられるわけです。だから、狭い日本人社会の中で暮らすのではなく、積極的に現地の人々と交流し、文化にふれる体験を増やしていかなければならないと常日頃から考えています。何歳になっても、自ら学び、自ら考え、チャレンジして成長し続けていくことが必要だと思います。

シンガポール便り 202

2017年11月15日 三好 隆志

① 英語



2000年に始められたのが、Speak Good English Movement です。この運動の基本的な目的は「Singlish として知られているシンガポール英語が外国人に通用しないとの理由で、学校では正しい『標準英語』を教えるべきだ」というものです。この運動のため、若い世代はある程度は分かりやすい標準英語と親しい人と会話する Singlish とを使い分けすることができるようです。ちなみに、イギリス英語なので、階は写真のように STOREY となり FLOOR ではなく、列は QUEUE といふ LINE ではありません。このように、単語が違うのでとまどうことが時々あります。日本は、アメリカ英語なのですね。



② 冬

熱帯のシンガポールでは、冬への憧れが強いです。マリーナベイサンズのモールにはアイススケートリンクがありますし、映画館やバスなどでは冷房をギンギンに効かせています。寒いくらいに冷やすのがおもてなしだと考えているわけです。12月になると、レストランでは雪だるまの飾りが登場しました。

③ お札

シンガポールでは、現在2・5・10・50・100・1000そして10000シンガポールドルのお札があります。そして、2・5・10ドル紙幣に2004年5月からポリマー（プラスチック）製紙幣が使用されています。それは、シンガポールの気候が深く関係しています。それは、これらの小額紙幣は、頻繁に使用されるため、天候の影響を強く受け破損というトラブルが起こりやすいからです。ちなみに、写真の1000ドル札は見たことがあります。10000ドル札はありません。きっと、スーパーなどではお釣りに困って使用できないことでしょう。



④ スーツ

シンガポールでは、どのような服装をしているのでしょうか。学校職員の服装は、写真のように熱帯ではありますが、式などの大きな行事ではスーツ着用となっています。だから、エアコンのない場所では汗びっしょりになっています。普段は、スマートカジュアルといったノーネクタイのボタンダウンシャツとネームカードをしています。Gパンや半ズボン、サンダルなどは禁止されています。



⑤ 掲示物

学校の掲示物は、どのようにしているのでしょうか。これは、毎月日本の季節に合わせて変えていきます。例えば、写真は7月の掲示物です。七夕がテーマになって、仙台の七夕飾りをイメージしたものを子どもたちが作っています。他にも、子どもたちの作品を学期ごとに入れ替えながら掲示しています。



シンガポール便り 201

2017年11月12日 三好 隆志

① 火災

シンガポールでは、普段日本のように消防車を見かけることがほとんどありません。もしかしたら、火災がほとんどないのでしょうか。日本では、木造家屋が多いため火災が起きやすいと思われます。その点、シンガポールではビルがほとんどなので起きにくいのではないのかもしれませんが。この点を見るため、消防白書から日本の主要都市15(2005年)、世界の主要都市22(2004年11、2005年11、重複あり)の人口100万人当たりの火災による死亡者数を調べてみました。すると、国別の国際比較では、日本の火事による死亡者数は人口10万人当たり1.16人であり、世界192カ国中125位と少ない方でした。(WHOの国際死因統計による2002年の値)。一方、2012年シンガポール民間防衛隊(SCDF)のまとめによると、死亡者は年間たった4人で人口10万人当たり0.07人になります。また、火災発生総件数は4,470件でした。やはり、非常に少ないようですが、これは政府の啓発努力や火災の危険に対する一般市民の意識の高まりが、火災の減少に役立っているということらしいです。

② ガーデンシティ政策

シンガポールでは、観光立国をめざす過程で緑化政策に早くから取り組みました。そのため、公園が整備され街路樹も豊かに育っています。実は、植物の維持管理の方法についても、ITの先進国らしくコンピュータが活用されているそうです。つまり、街路樹に植栽された樹木の1本、1本がすべてデータベース化され、コンピュータに登録、管理されているわけです。樹木の種類や名称はもとより、植樹年月や樹齢、さらには過去の病歴など、樹木を適性に管理するための多くの情報がインプットされていて、常に良好なコンディションで維持管理されているそうです。



③ マンション

シンガポールでは、窓に雨戸や網戸が設置されていません。そして、最近のシンガポールのコンドミニアムはモダンな造りが多く、床から天井までガラス張りで真っ白な大理石のフローアという日本ではあまり見られないような部屋になっています。窓が大きいので部屋が明るく眺めは良いです。シンガポールは地盤が安定していて地震がないため、窓が大きいそうです。しかし、子どもが遊んでいて間違えて窓を突き破ったら大変です。また、小さい子どもがいたら転倒して頭を大理石で打つかもかもしれません。だから、下の写真のようにマットやじゅうたんを敷き詰めて事故を防いでいる家庭もあります。そういえば、ジャカルタの時には子どもが赤ちゃんだったので我が家でも畳を使用していました。

シンガポール便り 200 East Coast Park

シンガポール南東の海岸沿いに8.5kmにも及ぶ細長い公園。これがイーストコーストパーク！「知ってる！」「行ったことがある！」という人も、8つのエリアを全て回ったことはないのでは？ ジョギングや自転車で走りながらシンガポールの風を感じ、天気や時間帯でいろいろな表情を見せてくれる自然の魅力に触れてみましょう。

Hエリアは森の中を走るような道になっています。その道をずっと進んでいくと National Service Resort & Country Club という場所の看板がありました。ここが一番東側です。



イーストコーストパークには、シェア自転車を使っている人もたくさんいましたよ。

Hエリア

Fエリア

栈橋を渡っていくと、自転車を止めて釣りを楽しんでいる人がたくさんいました。家族で訪れ、ぜひこの機会に釣りにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。何が釣れるのかは、お楽しみです！



巨大なアスレチックやプレイグラウンド、ローラースケートを楽しむ広場があり、子どもたちがいっぱい！



いろいろな種類の自転車がレンタルできるよ。

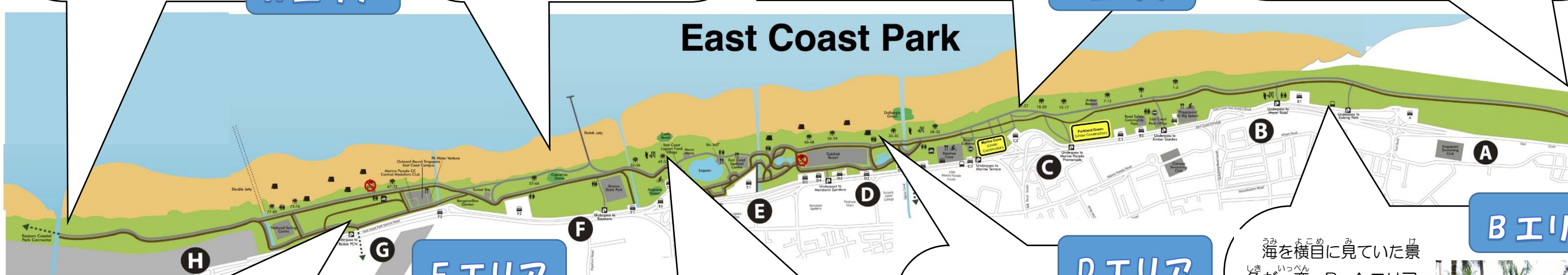
Cエリア

Aエリア

イーストコーストパークの最西端は、「Gardens by the Bay Bay East」につながっていました。そこからは、マリーナ湾を挟んでシンガポールフライヤーやマリーナ・ベイ・サンズなどを望むことができました。マリーナ湾から吹き込む爽やかな風を受けながら、この景色を眺めてみませんか？



East Coast Park



Gエリアは、海沿いの道から外れて、車が走る高速道路（ECP）の横を通ります。この高速道路（ECP）の真ん中をよく見てみると、お花が咲いているプランターがあることに気が付くと思います。なぜ道路の真ん中にプランターがあるのかというと、すぐに動かすことができるからです。実はこの高速道路（ECP）、もしもの時のために、飛行機が離着陸できるように作られています。だから、何かあった時にはプランターを動かして、滑走路にするそうです。

Gエリア

Eエリア

ビーチでは、砂で城を作るイベントが行われていました。本格的な城や城壁の作り方を教えてもらって、思う存分砂遊びを楽しむのもいいですね。



シーフードセンターやホーカーも並んでいます。ローカルフードやフレッシュジュースで、ちょっと休憩してみてもいいですね。

Dエリア

Dエリアに入ると、たくさんのテントが目に届いてきました。このエリアはキャンプ場になっていて、バーベキューをたのんでいる家族もいました。バーベキューをしながら海遊びも、気持ち良さそうです。



Bエリア

海を横目に見ていた景色が一変。B～Aエリアにかけては、両側が木々で囲まれます。心と足下に目を向けると、「PCN」と道路に書いてあることに気が付きます。これは、Park Connector Networkの略で、自然や文化、歴史、娯楽の場をつなぎ合わせ、私たちにサイクリングやジョギングなどのレクリエーション活動の機会を提供するというシンガポールの取組なのです。



シンガポール便り 199

2017年11月7日 三好 隆志

泰日協会学校（バンコク日本人学校）

バンコク日本人学校は、児童生徒約 2700 人、教員 222 人の世界最大の日本人学校です。タイ国での日本人学校の前身は、1926 年創立の盤谷日本尋常小学校にまで遡ります。1946 年、第 2 次世界大戦の終戦に伴って盤谷日本国民学校は閉鎖されましたが、バンコク在住日本人の中から日本語による教育を望む声が高まり、現在のバンコク日本人学校が生まれました。タイには、他に全校児童・生徒約 400 名からなるシラチャ校も存在しています。



さて、特色ある教育活動としては、まず土曜登校日があります。小学部 4・5 年生は月 1 回程度、小学部 6 年生から中学部 3 年生は月 2 回程度の土曜登校日を設定し、授業時間を確保しています。また、タイ国教育省よりタイ語の授業が義務付けられているため、片仮名表記にしたタイ語の教科書を使って、会話を中心に指導しています。さらに、シンガポール日本人学校と同じように常夏の気候を生かし、1 年を通して水泳指導を実施しています。5 年生では、その泳力の発表の場として、チャーム臨海学校で遠泳を実施しています。学校施設としては、児童・生徒の安全を確保するために、3 重のセキュリティを強めています。また、安全対策として、窓ガラスには鉄格子をつけることが義務付けられています。シンガポール日本人学校にはないのですが、学校内に購買部が存在していました。2 年生以上になると、休み時間等に一人で買い物をしているようです。主に鉛筆、消しゴムなどの学用品が販売されており、食べ物は売られていませんでした。バンコク日本人学校で使うノートは、一般販売されているものではなく、学校指定の特注品でした。このノートは、前述した購買部でのみ購入できるということでした。



次に、バンコク日本人学校には 2 つのグラウンドがあります。一つは昔からある土のグラウンド、もう一つは最近できた芝のグラウンドです。学校としては、2 つとも芝のグラウンドにしたいらしく、現在土のグラウンドの方にも天然芝を生やす計画が進められています。全校児童・生徒の人数が多すぎるので、運動会も一度ではできずに、2 日開催で行うそうです。

シンガポール日本人には 5 教室ある特別支援教室ですが、バンコク日本人学校にも 3 教室設置されているそうです。



トゥクトゥクに乗車

シンガポール便り 198

2017年11月5日 三好 隆志

プール

私たち日本人学校の職員はもとより、日本からシンガポールに”駐在”あるいは”移住”される場合、ほとんどの人が住むことになるのがコンドミニアムと呼ばれる集合高級住宅です。このコンドミニアムには、プールやジムは標準でついてきます。もちろん使用料はかかりません。一部のモールなど商業施設と併設して建てられているコンドミニアムを除いて、駐車場も無料になっています。今回は、そのコンドミニアムと日本の住宅との大きな違いであるプールについて特集します。

赤道直下のシンガポールでは、一年を通じて季節は夏です。ただし、昨今の温暖化による日本の夏の猛暑とは違い、6月下旬のような気候です。昼間はかなり気温が上昇しますが、夜間は熱帯夜のような寝苦しさはあまりありません。シンガポールの人々は、日焼けすることを嫌います。だから、暑い日中はプールに入るにはもってこいの時間帯ですが、平日昼間のプールには人影はありません。では、いつ頃プールを利用しているのでしょうか。午後4時を過ぎた頃、学校に行っていた子どもたちが一斉に学校から帰ってきます。すると、今まで静かだったプールがにわかに賑やかになってきます。水着姿に着替えた子どもたちが、いっせいにプールに飛び込むのです。子どもたちにとっては、プールはちょうど良い遊び場なのです。公園や広場のようなものなのです。炎天下の屋外で、長時間遊ぶことは熱中症の危険もあります。だから、プールは遊び場所としては最適な場所になっています。もうひとつ、遊び場所としての役割以外にもプールが大活躍する場面があります。それは、スイミングスクールです。シンガポールでは、水泳のコーチがコンドミニアムのプールに出張してきて水泳を教えてくれます。プールが運動場やコートに早変わりするのです。

プールを楽しんでいるのは子どもたちだけではありません。週末になると大人の姿が多くなります。デッキチェアに寝そべて本を読む人、日光浴をする人、黙々と泳ぐ人、それぞれに平日に溜まった疲れを癒します。大人から子どもまで、年齢や性別に関わらず、それぞれの方法で楽しむことが出来るのもプールの大きな魅力です。四季がある日本とは違い、一年を通じて真夏のシンガポールでは、プールの存在が暑さを和らげる癒しの空間を演出してくれます。つまり、シンガポールではプールはリッチな象徴ではなく、生活にはなくてはならない存在なのです。



シンガポール便り 197

2017年11月3日 三好 隆志

ボタニックガーデン13

ボタニックガーデンでは植物への知識を楽しく深めることができる様々な無料ガイドツアーが開催されています。ほとんどのツアーが英語ですが、たった1つの日本語ガイドツアーに何度も参加しましたが、コースが決まっているため、他のエリアをガイドしてもらうには英語が分からないといけません。英語がもっと話せたらなあと思う瞬間です。



さて、ボタニックガーデンには子どもの遊ぶことができるエリアもあります。ジェイコブバラスチルドレンズガーデンといい、シャベルカーや回転シーソーのある砂場、まるで秘密基地のような大きなツリーハウスやジャングルのような森の中にある吊橋、植木の迷路、水遊びスペースなどがあります。今年度初めて、日本人学校の特別支援教室の子どもたちを引率して行きました。残念ながら、珍しく雨がしとしと長い時間続いたため、あまり十分には活動できませんでしたが、子どもたちが夢中になるものばかりを集めた子ども専用の公園があるということは素晴らしいと思います。ここは、12歳以下の子どもとその保護者や引率者しか入場できない仕組みになっているので安心安全です。週末はもちろん、平日でも子どもたちが熱帯の植物と触れ合いながら、歓声を上げてかけ回っているようでした。子どもを見守るお母さんたちも森林浴気分でのんびりくつろげるのが魅力ですし、こんなに充実した施設なのに入場無料というのうれしい点です。ただし、この施設のみ月曜が休みなので注意が必要でした。



さて、次は遊んだり見学したりした後の食事です。レストランが5カ所あります。まず、マレー語でショウガを意味するハリアは、ジンジャーガーデンに面するレストランです。屋内席とテラス席があり、どちらも緑に包まれながらヨーロッパとシンガポールを融合した目にも美しい料理を楽しめます。特にジンジャーをふんだんに使ったランチセットは、ヘルシーでお勧めです。右の写真のようにハリアの入口は、植物園の景観を損なわないシックな建物となっています。



次は、コーナーハウスレストランです。植物学者だったコーナーのかつての住居であるコロニアル建築の邸宅を



改装した隠れ家的な高級フレンチレストランです。2016年の夏に東南アジアで初めて発行された「ミシュランガイド シンガポール」で1つ星を獲得しました。値段は、ランチで1万円くらいですが、お客さんの多くはワインを注文していてそれが何万円もするものもあり、ちょっと日本人には馴染みの少ない楽しみ方をする高級レストランでした。



次のレストランは、カーサ・ベルデです。ビジターセンターに隣接していて、いつもお客さんでにぎわっています。欧米人が好きなオープンテラスのカジュアルなイタリアンです。シンガポールのフレンチで最高レベルと評される「レザミ」グループなので、とても美味しいです。ピザやパスタ、ハンバーガーやサンドイッチなど、どれも値段が手ごろでカジュアルに楽しめるものばかりです。そして朝早くから営業していることもあり、朝の散歩がてら朝食を食べに立ち寄る人が多く、週末の朝の時間帯は特に混み合います。



次のレストランは、今年オープンしたガレージです。その名の通り昔ガレージとして使用されていた建物を改装してモダンなレストランになりました。1階と2階がそれぞれ分かれて、2階がビストロレストランの「Botanico」1階は気軽にパスタやピザを楽しめるカフェ「Bee's Knees」です。先ほどのカーサ・ベルデより隠れ家的なムードがありました。



最後は、このガレージの裏側にあるブルーバリです。バリ風な店の造りになっていて、やはり欧米人に人気ようです。メニューはインドネシア・バリ料理、インド料理、ウェスタン、タイ、中華といった色々な種類がありました。



このように、休日をのんびりと過ごせる素晴らしいボタニックガーデンは、仕事とプライベートとのオンオフの切り替えにもってこいの、私が3年間で1番多く訪れた場所になりました。

シンガポール便り 196

2017年11月1日 三好 隆志

マリーナベイサンズ

今やシンガポールのシンボルともなったマリーナベイサンズを特集します。3つのタワーからなるマリーナベイサンズは、約5000億円もの資本を投じてカジノの本場、ラスベガスのリゾート運営会社ラスベガス・サンズによって開発されました。マリーナベイサンズとは、ホテル、屋上の天空プール（インフィニティプール）、ショッピングモール、レストラン、美術館、シアター、グラスパビリオン、カジノなどが一体となったシンガポールの統合型リゾート（IR）のことで、当初のオープンは、2009年に予定されていましたが、奇抜なデザインのためか建設費の増大、資金面の問題によって最終的なグランドオープンは2011年2月17日となりました。また、この奇抜なデザインはイスラエル系カナダ人の建築家モシェ・サフティによるものです。タワー1、2、3と3つの超高層ビル（最高部で高さ200m、57階建て）を屋上で連結した構造です。このデザインは海から入ってくる船が、ホテルを門に見立て、シンガポールの関門という意味を表している。また、横から見て'入'字形になっており、'入'字形というのは風水的にも良いとされているようです。実は、シンガポールは地震や台風がなく、災害が全くないといっているほどありません。そのため、耐震性や強度について細



かい安全基準の必要があまりなくて、独創的でユニークな建物を作り出すことができるそうです。逆に言うと、地震が起これば大災害になってしまうのかもしれない。

さて、ホテルとカジノとモールの売上はどんな割合でしょうか。2015年のホテル客室収入が約400億円、カジノ収入が約2500億円で、モールは約180億円となっていました。つまり、カジノが80%以上もの売上を誇っているわけです。日本で統合型リゾート（IR）の誘致合戦になっている理由がわかります。施設を見ていくと、カジノは500のテーブルと1600のロットマシンが並び、単独としては世界最大の規模だそうです。ホテルは、2,561室あり1泊が5万円以上します。屋上にある1ヘクタールの空中庭園「サンズ・スカイパーク」（Sands Sky Park）は船の形をしていて、シンガポールを一望できる展望台として観光名所となっています。入場料は、約2000円です。屋上プールは、150メートルもあり、世界一高い場所にあるプール（地上200メートル）を謳っています。ただし、部屋のカードキーが必要なため宿泊客しか入場できません。



シンガポール便り 195

2017年10月30日 三好 隆志

食べ物12

シンガポールではサトウキビジュースを「シュガーケーキ」と言います。サトウキビの青臭さがありますが、レモンやライム入りもあるので、少し解消されています。目の前でサトウキビを機械に入れて絞ってくれます。中華料理の油っこいご飯の後には、これを飲めば口の中はすっきりするというわけです。



次は、かき氷です。写真は、マンゴとイチゴのかき氷です。値段は500円くらいです。日本のかき氷と違うのは、味付き(ジュース)の氷を削っていることです。かき氷というよりシャーベットに近く、白く細やかな氷になります。ミルクやジュースは普通の氷より柔らかく削りやすいので、ふわふわになるみたいです。他にも、ドリアン味や抹茶味など20種類以上ありました。



さて、次の写真はエッグタルトです。「エッグタルト」といえば、タルトがさくっと、中のカスタードは熱々でとろっとしたお菓子で、香港が有名です。賞味期限は室温で当日、冷蔵庫で翌日までとなっているため、日本にお土産でというわけにはいきません。焼きたてだと温かくて、美味しいのですが、冷蔵庫で冷やして食べるのも美味しいです。値段は、1個150円くらいです。



次は、ドリアンです。原産地はマレー半島で、タイ・マレーシア・インドネシアなどで栽培されています。果物の王様として有名ですが、その強烈な匂いのため、シンガポールではバスや電車の中に持ち込むと罰せられます。匂いの成分は、硫黄化合物だそうです。値段は、写真のものが500円くらいでした。私の知り合いは、毎年7月上旬にペナン島ドリアンツアーに行きます。ドリアンは実を割ってから時間が経つにつれ臭いが強くなっていくそうなので、取れたてのドリアンは臭みが無くとてもおいしいそうです。下の写真はドリアンの中でも一番おいしいと言われる「猫山王 MUSANG KING」で、値段も4000円もしていました。



最後は、バブルティーです。これは、台湾で生まれた飲み物で「パールミルクティー」と呼ばれる冷たい紅茶です。ミルクで味付けされていて、「バブル」とは、紅茶の中に入っているタピオカの粒のことを言います。シンガポールでは、至るところにバブルティーを売る露店や店があり、その多くはカウンターで注文してテイクアウトするスタイルです。甘さは、30% 50% 70% などと選べ、私はたいてい50%にします。値段は、写真のLサイズで350円くらいです。辛い食べ物が多いので、一緒に飲むと美味しいです。



シンガポール便り 194

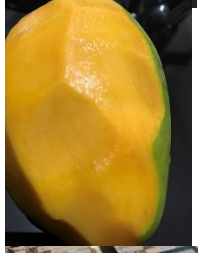
2017年10月27日 三好 隆志

食べ物11

私の大好物の果物ランブータンは、東南アジア原産の果物です。マレー語で rambutan は「毛」「髪」を意味し、それに接尾辞-an (～もの) が付いて「毛の(生えた)もの」という意味だそうです。確かに、毛が生えているような見た目です。初めて見たら驚きます。私は、日本人会に月に2度通っていますが、MRTの駅から日本人会まで歩いていると、通りに高さ10mくらいのランブータンの樹木が1本あります。5月頃と11月頃、写真のような果実がたくさんできています。果実は赤色で長さ5cmくらいです。中には半透明の汁気の多い甘い肉質の部分があります。味は、ライチを甘くしたような感じです。スーパーなどでは、1パック20個くらいが300円くらいで売っています。時々、枝についたままで売っていることがありますが、果実が甘いので蟻がついていることが多いです。



次は、ポメロです。マレー半島原産で、柑橘類の中でも最大のサイズが特徴です。実は、このポメロが日本にもたらされて改良されたものがサボンや文旦だそうです。ポメロの直径は約20cm、重さは1kg前後あります。また、外皮が2.5~3cmほどの厚みがあります。皮の色は、黄緑や黄色です。果肉の色は、グレープフルーツのような薄い黄色や薄紅色です。果肉と薄皮の実離れが良いので、果肉を一つずつむきやすいです。全体的に硬く締まりがあって、ツブツブの弾力性もグレープフルーツより強く、口の中でプチプチ潰れながら中のジュースを味わうような感じです。手でほぐす際も、簡単に果肉が潰れるようなことはありません。食味は、酸味と甘みのバランスがよく、さわやかな香りがあります。値段は、1個500円くらいです。



次は、マンゴです。ウルシ科の常緑高木です。ウルシ科というくらいですから、食べてかぶれる人がいます。桃にかぶれる人は、マンゴもかぶれやすいようです。顔が腫れて熱が出た人がいました。しかし、それは稀だそうですので、ほとんどの人は大丈夫です。南アジア、マレー半島の原産でタイやマレーシアや台湾のものがシンガポールでは多く流通しています。幹の高さは20mくらいで、日本人学校にも木があります。果実は、ゆがんだ楕円状球形で熟すると橙黄色になります。果肉は生食のほかにドライマンゴとして干菓子にもなっています。実は、デザートに「マンゴサゴ」というのがあります。これは、マンゴピューレに先ほどのポメロが取り合わせてあります。マンゴの甘さをポメロの酸っぱさでさわやかな後味にしてくれて絶妙な取り合わせです。もちろん、他にもマンゴプリンがデザートとして有名でお店によってきれいな形にして提供してくれます。

シンガポール便り 193

2017年10月25日 三好 隆志

シンガポール（チャンギ）国際空港

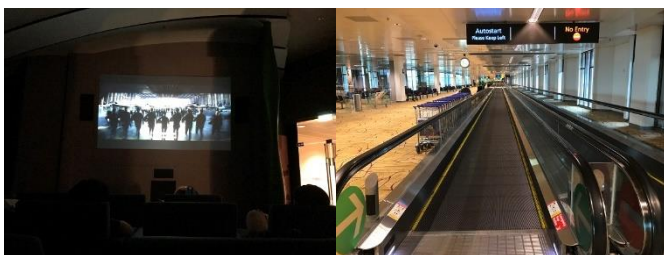
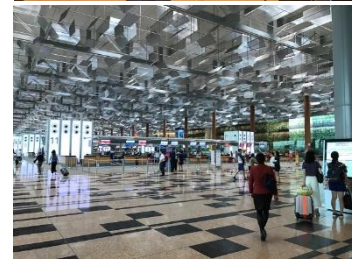


シンガポール国際空港は1981年に開港し、もうすぐ40年を迎えます。イギリスのSkytraxが発表した2017年の世界空港ランキングでは、5年連続第1位を獲得したそうです。ちなみに、東京国際空港は第2位になっていました。利便性や設備の充実を評価された結果だそうです。毎朝始発のバスに乗っていますが、いつも一緒に乗るシンガポール人のご婦人も空港で働いています。何と、約4万人もの人が空港関係で働いているそうです。空港内の店舗数は400に迫

り、飲食店も150くらいあるそうですから、それもうなずけます。今年は、第4ターミナルも完成し運用が始まりました。私も、空港にチェックインした後は、第2ターミナルにある映画館で、最新映画を無料で楽しんでいます。他にも、無料のフットマッサージ機もたくさん設置されていて、よく利用しています。

さて、政府観光局によると2016年の外国人入国者数は1640万人で、過去最高だったそうです。シンガポールは、金融や貿易と観光に力を入れているわけですが、政府と空港およびシンガポール航空の3者が協力して、毎年約10億円を投じて海外にPRしているそうです。

シンガポール国際空港を利用している航空会社は、100を超えているそうです。それが、約世界380の都市へ航空便を提供しています。航空会社では、さらなるハブ空港への地位確立として、航空会社に着陸料や駐機費用を半額に割引くなど、支援を行っているそうです。今年営業を開始した第4ターミナルにより、2016年に5870万人だった空港利用客数は、8200万人になる見通しだそうです。しかも、現在2026年完工予定で第5ターミナルの工事まで始まっています。これが、稼働するようになると年間旅客数は現在の2倍以上の1億3500万人と見込まれるそうです。また、2014年から第1ターミナル横でドーム型総合商業施設「ジュエル」の建設が行われています。2019年に開業すると、地上5階地下5階300以上の店が入居することになります。内部には、樹木が植えられて屋内世界最大の40mの滝まで建設されているそうです。アーリーチェックインや乗り継ぎの客などが活用する新たなショッピングスポットとして、注目されること間違いあ



りません。このように、空港はもはや目的地に行くためだけの施設ではなくなり、他の空港とのネットワークの拡大だけでなく、設備やサービスの充実を図って、旅行者に利便性をアピールし、優位性を発揮していくことになるのです。

シンガポール便り 192

2017年10月22日 三好 隆志

ボタニックガーデン12



さて、熱帯雨林（レインフォレスト）は、茂みをかきわけて進むイメージではありませんか？実は、足元はスカスカで雑草もあまりありません。なぜでしょうか？それは、高い樹木にさえぎられて光が届かないことと、風も吹かないこと、そして栄養分が土に含まれていないことによるそうです。栄養分がないとは、これまたジャングルのイメージとは異なりますよね。実は、土壌の質は赤土でもともと栄養分がないため、表面の20~30cmしか栄養土はありません。それを、大木が吸い取るし、スコールで洗い流されるため、栄養分が溜らないというわけです。だから、根を深く下しても栄養を補給すること

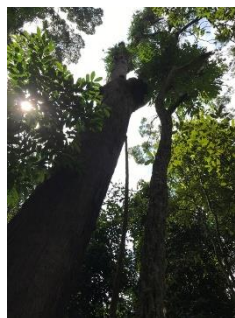
ができないため、根は水平に広がることになります。しかし、それでは何十mにもなる幹を支えられないため、写真のように板根といって地上近くの根が平板状に著しく大きくなり、樹木の支持や通気の働きをするようになっています。



さて、右の写真はジョホールフィグというイチジクの仲間です。気根で他の植物を包み込み光を奪い枯らせます。通称、絞め殺しの樹と呼ばれます。この木は、もう何百年もの樹齢でヘリテイジツリーと看板が出ています。他を圧倒する巨大さで、一番のお気に入りです。絞め殺されたホストツリーは、アルトカルプスという木だそうです。この木は、通称棺桶の木と呼ばれているそうです。この木に、鳥がジョホールフィグの種を上空から落として、このように周りを気根で覆って絞め殺したというわけです。これだけ大きくなると、リスなど小動物の大切なシェルターになっているということです。写真のような木製のツルも、小動物が地上に下りるリスクがなく、シェルターになっているわけです。



左の写真の木は、メランティ（フタバガキ）です。日本では、ラワンとして合板に用いられ、工場や作業場の床板、機械類の台、トラックの荷台などに利用されています。高さは数十mにもなる巨木です。このような50m以上になる木を、突出木といいます。開花までに何年もかかります。そして、不定期に何年かに1度白い花が咲きます。すると、周囲の木もつられて一斉に咲く



不思議な現象が起こるそうです。

最後に、倒木の写真を見てください。何と年輪がありません。実は、年輪は四季がある地域にできるもので、冬に成長が止まるからだそうです。だから、常に成長している熱帯では、古い写真や文献から樹齢を予想するそうです。

シンガポール便り 191

2017年10月20日 三好 隆志

ボτανックガーデン11



シンガポールのお気に入りの場所ボτανックガーデンには、月に1度は訪れてマイナスイオンをいっぱい浴びます。とにかく、巨大な樹木やうっそうとしたジャングルは、都会の街並みとは対照的です。まず、空気が排気ガスだらけの都市の空気よりおいしいです。また、木々や草花の香りが心を落ち着かせ、リラックスできます。枝葉や小鳥のささやきやゆらぎが心地よく、日常と少し離れた場所に来ることにより、よりリフレッシュしていきます。

さて、毎月第一土曜日には、日本語のガイドツアーがありますが、夏休みは特に参加者が多くなります。3グループで10人ずつくらいが基本だと思いましたが、3倍くらいになっていました。30人もいると、ガイドさんの声を全て聞き取ろうとすると大変困難です。熱帯雨林（レインフォレスト）を中心にレポートしてみます。

まず、ラタンです。ラタンとは、つる性のヤシの総称です。日本では藤と呼ばれ、東南アジアを中心に熱帯雨林地域のジャングルに自生しています。このラタンは、30mくらいで節があり、とげを持った表皮に包まれていました。このとげは、動物などに食べられないためにあるのだそうです。その繊維は植物中最長にして最強といわれ、長さが200メートルを超えるものもあり、他の樹木にからみつき空に向かって伸びていきます。およそ5年で加工に適した大きさに成長します。根元から先まで、太さはほとんど同じだから加工しやすいそうです。また、折れにくく曲線の加工もしやすいため、細かく裂いたものを編んで籠としたり、太いものは家具のフレームなどに使用されたりします。通気性もいいのも特徴で、暑い季節には人気のある素材です。



次は、トンカットアリ（アリさんの杖）という木です。小さな木ですが、伸びるのも遅く、1年でたった1cmしか成長しません。根が滋養強壮に効くといって男性に好まれているそうです。しかし、栽培は難しく、本当に有効な成分は根の先端の一部といわれているので非常に高価だそうです。



最後は、イチジクです。ちょうど今回は、実をつけていました。実は、こ



れは木によってできる時期が違うそうです。不定期にいろいろな場所で実をつけるために、小動物などにとっては1年中食べ物があるところに入るといことになります。

このように、ボτανックガーデンの熱帯雨林区域は、シンガポールの昔のままのジャングルを生かして、熱帯地方にある植物園としては極めて自然に近い状態で管理されていて見応えがあります。



シンガポール便り 190

2017年10月17日 三好 隆志

ドバイ6

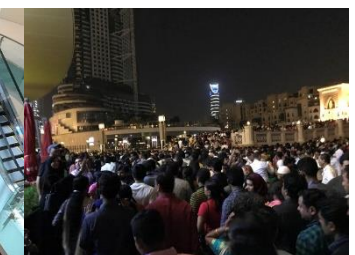
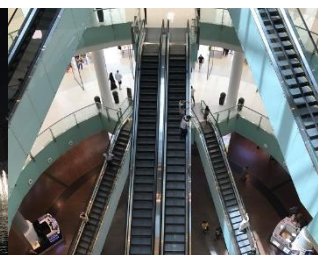
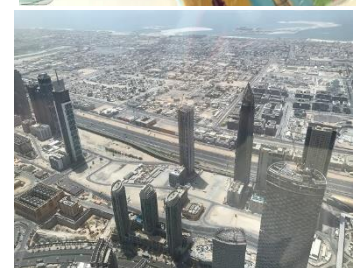


ドバイのシリーズ最後になります。まずは、パブリックビーチです。ビーチの後ろに、1部屋20万円以上する高級ホテルブルジュアルアラブが見えます。イスラム教とはいえ、観光地だからでしょう肌を出した水着でもOKです。周りに飲食店が無いので、40℃を超えるビーチではドリンクを持参しないとイケませんし、長時間だと火傷のようになってしまうと思います。海水は、お風呂のようになっていますが、透明度はますますというところでした。

次は、モノレールで回った世界一大きな人口島と名高いパーム・ジュメイラです。上空からは、ヤシの木のような形に見えるそうです。ここには、ベッカムやマドンナなど、世界有数のセレブが購入したというプライベートビーチ付の邸宅もあるそうです。

次は、世界一の高さを誇るブルジュ・ハリファです。高さは、828mで、206階建です。屋外展望台は124階にあり、「At the Top」と名づけられ2010年にオープンしました。展望台には、当日券だと12000円ですが、ネットで予約していくと3分の1以下の3,500円になりました。この世界一の記録は、いくつかのそれを超える超高層ビルが建設中で、遠からず更新されるということでした。2011年に公開された映画ミッション:インポッシブル/ゴースト・プロトコルで、主人公に扮したトムクルーズがブルジュ・ハリファの外壁をよじ登るシーンが有名です。展望台からの景色ですが、残念ながら砂が影響して、遠くまでは霞んで見えません。それに、飛行機からはもっと上空からの景色が見られますから、世界一のビルでなくなったら観光客は一気に減少するかもしれません。

最後は、ドバイ・ファウンテン(噴水ショー)です。噴水ショーといっても、規模や迫力がすごいです。5つのサークルと、それを繋ぐように弧を描く275mの長さの噴水装置からは、ビル45階に相当する高さ140mの噴水が放たれます。そして、6,600個の電球と25色のプロジェクターにより光があてられ、幻想的な空間をつくります。音楽のリズムに合わせて、噴水が描く光と水の表現が変わります。これは、ショーは1日に何度もありますし無料ですが、すごくたくさんの観光客が集まるため、満員電車のような状況になっていました。



シンガポール便り 189

2017年10月15日 三好 隆志

ドバイ5



ドバイの地元レストランに行きました。飲み物は「チャイ」で、ガラスカップに砂糖がたっぷり入った甘い紅茶です。やぎのスジ肉と野菜のスープの中にホブス（薄いパン）をちぎって、食べました。スジ肉がトロトロに溶けて柔らかかったです。全部で300円くらいでした。

さて、街の建物は薄茶色が多いです。砂の色に似ています。駐車場の車の写真のように、砂をかぶった車がたくさん停まっています。多分、1日で砂まみれになるでしょうから、洗車が毎日かかせないのではないのでしょうか。実は、あまりに汚れている車は罰金があるらしいです。ドバイは、街が車用に作られていて、歩行者通路や横断歩道、歩道橋が少ないです。また、気温が高くて直射日光も強く、外を歩くのが大変だということもあって、車が生活の必需品となっています。ガソリンの値段は非常に安く、自動車税もかからないということで、車を使う人はルールを守れば便利です。しかし、渋滞がひどく、駐車違反やスピード違反などの取り締まりは非常に厳しいようです。スピード違反は、カメラで取り締まり、後日請求されるそうです。だから、1日に何回もカメラに写って高額な請求が後日やってくるという悲しい事態が起こるようです。洗車については、スーパーマーケットの駐車場などに、専属の業者がいます。そして、500円30分くらいで洗車してくれるそうです。罰金については、観光立国ということとイスラム教ということで、知らないと驚くものがあります。例えば、ごみのポイ捨ては6000円です。電車やバスでの居眠りは9000円です。



最後は、砂漠ツアーです。砂漠を4WD車で豪快にドライブするツアーのことで、料金は約1万円でした。これに運転手兼ガイドに、チップとして1割程度渡しました。ホテルに迎えに来てもらい、40分ほど走って砂漠の入り口に着くとタイヤの空気を抜きました。そして、1時間くらい横転するのではないかと思うくらいに揺れながら走ります。砂漠の地平線に沈む夕日を眺めたり、鷹のショーを見たりして、砂漠のキャンプでバーベキューやダンス

ショーを観るアラビアンナイトを楽しみました。ちなみに、4WDは全てトヨタのランドクルーザーで100台くらいのツアーでした。小高い丘で、照明をつけてサンドボーディングを楽しんでいる若者もいました。



シンガポール便り 188

2017年10月12日 三好 隆志

ドバイ4



アブダビに、世界的に有名な観光地があるということで、ドバイからアブダビへバスで行きました。バスだと25AED(約750円)で済みます。座席指定はありませんが、並んでいけば20分おきくらいに来ていました。距離は約160km、時間は約2時間です。写真のように外は40℃以上ですが、エアコンが効いて座席もゆったりしているので快適に移動できました。アブダビは、アブダビ首長国の首都です。ドバイの約250万人に次いで、第2の約200万人の人口です。

アブダビには、エミレーツ・パレスという建築費が世界最高の3000億円という7つ星ホテルがあるそうです。金が随所に使われていて、内装、外観ともにゴージャスらしく、名物は金箔のカプチーノ(約2000円)だそうです。今回は、時間の関係で行けなかったのが残念でした。

さて、シェイク・ザード・モスクは年間300万人以上が訪れるという巨大なモスクです。モスクの名前にもなっているシェイク・ザードとは、UAE建国の父ザード・ビン・スルタン・アル・ナヒヤン(1918~2004没)のことだそうです。総工費は何と約600億円だそうです。残念ながら完成の3年前にシェイク・ザードはこの世を去り、最初に執り行われた式典が彼の葬儀となったそうです。建物は、信心深さを表現する白を基調としていて全て大理石です。中に入ると、世界最大のペルシア絨毯が敷かれています。約1,200人のイラン女性が約2年の工程で作った約9億円もする手織り絨毯だそうです。また、天井へ目を向けると立派なシャンデリアが飾られています。直径10mで、値段は約7億円。装飾はスワロフスキーを使用しており、重さはなんと12トンもあるそうです。とにかく、どこを写真に撮っても素晴らしく、訪れている誰もが圧倒されているようでした。また、夕暮れ時には空の色が青から刻々と変化し、とても幻想的でした。すっかり暗くなると、また照明が美しく建物を照らし出します。イスラム教信者でなくても入場できること、入場料が不要なことは、アブダビ自体の観光の目玉になっているのだと思います。



シンガポール便り 187

2017年10月10日 三好 隆志

ドバイ3



ドバイのお金について説明します。単位は、ディルハム (Dirham) と言い、AEDと表記されていました。だいたい30倍すると日本円になります。100AEDは、約3000円というわけです。物価については、日本より安いものが多いと感じました。ミネラルウォーターやコーラなどは、50円ほどで売られています。また、タクシーも初乗り3AED(約90円) 電車(メトロ) 2AED(約60円)と交通機関も非常に安いです。日本の3分の1の感覚でしょうか。ただし、お酒は高いです。これは、イスラムの国だからだと思います。街中のコンビニやスーパーではお酒を売っていません。ホテルや高級レストランで飲むことになるので、当然高くなるのです。また、チップですがホテルでは毎日5AED(約150円)を置いていました。1日ガイドをしてくれたら、30AED(約900円)くらい渡しました。タクシーは、釣銭をあげていま

した。少ないと要求されることもありました。

さて、ドバイは車社会ですので、旅行者は必然的にタクシー移動がメインになってきます。しかし、2009年9月9日開業したメトロが非常に便利でした。まだ、2路線しかないため、タクシーとの併用になることも多いのですが、正確で清潔で安く安全でした。利用は、駅で購入できるICカードにチャージして簡単にできます。何とこのメトロは、三菱が作ったそうです。他にも、大林組や鹿島建設が関わっていて、日本人として大変誇りに思いました。ただし、驚いたことが1つありました。金曜日は13:00まで運休しているのです。これは、イスラム教の祝日だからだと思いますが、日本で日曜日に運休したらどう思われるのでしょうか。国の文化を感じました。

次に、車について紹介します。圧倒的に、日本車が多いようです。しかも、ランドクルーザーやレクサスなどの高級車をたくさん見ました。車の値段は、シンガポールではランドクルーザーが2000万円以上しますが、ドバイでは800万円くらいだそうです。税金がかからないから、日本とあまり変わらないわけです。ただ、ナンバープレートがオークションらしく、小さい数や規則性のある数などは、車よりも高いものまで

あるそうです。それから、車の色ですが、白色が多いです。特にバスやタクシーは白色が多いです。これは、多分白色は太陽の熱を吸収しないからだと思います。また、黒色などは砂埃がよけい目立つからかもしれません。



シンガポール便り 186

2017年10月7日 三好 隆志

ドバイ2



ドバイの最初に感じた印象は、砂による視界の妨げです。上空はある程度見えますが、遠くは白く霞んで見えます。多分、視界は数キロ程度だと思います。砂漠の砂が舞っている状況なので、目やのどが痛くなります。旅行中5日間は、ずっと砂が舞っていたから多分いつものことだと思います。ただし、11月から3月までは冬季で、もっと砂嵐があるようです。気温については、ゴールデンウィークの5月で最高43℃、最低26℃くらいでした。43℃は、初めて経験する高温で、痛いくらいでした。とうてい長い時間外にいることはできません。しかし、ホテルのプールやビーチでたくさんの方がいるのを見ました。後で、やけどになっていないか心配なところです。気温については、冬場の最高気温が25℃、最低気温が15℃くらいらしく、日本の4月や10月くらいでしょうか。だから、冬場がハイシーズンだそうです。ツアーのガイドが、夏の暑い時期はお客さんが少なく収入が激減すると話していました。

さて、実は入国で困ったことがありました。日本人は、ドバイにおけるビザ免除の対象国となっていて、ドバイ国際空港に到着したらパスポートに30日間の観光査証(Visit visa)のスタンプが押されようです。ところが、それは一般のパスポートの話で、私たちオフィシャルパスポートの場合はビザが必要となっていました。そして、何と1カ月後には、その条件が無くなり一般と同じ扱いになるというのです。タイミングがもう少し後だったらと残念でしたが、1万5000円ほどの手続き料を支払いし事務所に2時間あまり要してやっと入国できました。これには、他に2つのエピソードがつきます。1つはホテルにこの手続きを依頼したのですが、デポジットとして16万円を取られてしまったのです。拳句の果て、できないから直接到着時に自分でしなさいと言われ、デポジットだけは引き落とされていました。結局返金されたのは3カ月も後でした。それから、同じ時期に知り合いで6日間滞在した人は、5日を超えるとビザの追加料金が発生し、高額な追加手数料を払うことになったそうです。その点は、私はぎりぎりセーフでした。さて、ホテルですがソフィテル ドバイ ダウンタウンという1泊3万円くらいの5つ星でした。シンガポールよりも若干安いレベルだと思います。ドバイモールや世界一高いブルジュハリファに近く、広くて30階くらいにあり眺めも良かったです。しかし、バスタブに水を溜めたら砂で濁っていました。最初に感じた砂っぽい空気がここでも見られたわけです。



シンガポール便り 185

2017年10月5日 三好 隆志

ドバイ



ゴールデンウィークに5日間旅行したドバイのレポートをします。ドバイには、日本からは直行便で約11時間、シンガポールからは約7時間で行くことができます。時差は日本から5時間になっています。今回は、カタール航空を利用し、ドーハ経由でドバイに行きました。それは、カタール航空が、一度は利用したい非常に評判の良い航空会社だったからです。カタール航空の機内サービスの評価は、イギリスのスカイトラックス社による「5つ星航空会社」に認定されている9社のうちの1つに数えられているそうです。ちなみに全日空やシンガポール航空、キャセイパシフィック航空なども認定されています。カタール航空は、FCバルセロナのスポンサーになるとともに商業スポンサーとしては史上初のユニフォーム胸スポンサーとなったそうです。それで、非常時の説明はメッシがビデオに登場していました。確かに利用した航空機はニューモデルのようでした。

カタール航空の機材は、平均の機材年齢が4年以下と群を抜いて新しいということでした。また、シートピッチ最大86cmとゆとりある空間が確保されていました。アイマスクや歯磨きセットや靴下等が入ったアメニティキットを用意が用意され、ミールサービスも美味しかったです。座席には、個人用大型モニター(Oryxエンターテインメントシステム)が全席に装備され、映画・音楽・テレビ番組・ドキュメンタリーなど1,000を超えるプログラムを、好きなときに選べるようになっていて、最新作の映画を2本鑑賞することが出来ました。

さて、ドバイは、中東地域の中央、ペルシア湾に面した平坦な砂漠の国で、面積は日本の100分の1しかありません。1971年のイギリス軍のスエズ以東からの撤退により、100年以上に渡るイギリスの統治が終了しました。現在は、石油依存型の経済から脱却して、金融・流通・観光の一大拠点として開発が進んでいます。マスターカードの調査によると、2016年のドバイの宿泊者数は1527万人で世界第4位。東京(1170万人)、ニューヨーク(1275万人)を超え、パリ(1803万人)やロンドン(1988万人)に迫っています。(ちなみに1位はバンコクの2147

万人)とところで、ドバイの人口は約280万人ですが、アラブ首長国連邦

の国籍を持つ人は23%に過ぎず、8割近くが外国人労働者だそうです。インド、パキスタン、フィリピンなどの人が多く、郊外には中国系の巨大なショッピングモールもあります。欧米人も比較的近いので、観光や保養でたくさんの方が訪れているようでした。



シンガポール便り 184

2017年10月2日 三好 隆志

日本人会



シンガポール日本人会は、1915年に発足しました。そして、私が赴任した2015年に創立100年を迎えました。今年は、戦後の再発足60周年を迎えます。また、現在の日本人会館は、1998年5月23日に当時副首相であったリー・シェンロン首相を招いて落成式が挙行されました。会館は総床面積7800㎡、駐車場6000㎡、4階建ての近代的な建物です。この建物は、世界中の日本人会の中にあって類を見ない施設を誇っています。現在約5,271名の正会員（日本国籍保持者）と415名の会友

（日本人以外の会員）が登録され、家族を含めると16000人の会員になります。また、法人会員は755社に上ります。（2017年6月23日現在）日本人会は、在留邦人に対する憩いの場、集いの場を提供するにとどまらず、日本人学校、日本人会クリニック、日本人墓地の運営・管理そして現地社会との交流といった、シンガポール在住の日本人社会が担うべき公の責務を果たしています。また、チャリティ活動や文化活動を通じて日本とシンガポールとの友好と親善にも積極的に寄与しています。

さて、施設の説明をしましょう。日本人会クリニックは財団法人海外医療邦人基金の支援によって1985年に設立されました。私も、夏休みには人間ドックで利用しています。図書館は、1階の子ども図書館が児童書約18,500冊、漫画本約6,500冊、2階の一般図書館が、約37000冊の日本語書籍、雑誌、新聞を取り揃えています。貸出は、無料で1家族20冊まで2週間となっています（延滞料1冊につき1日30セント）。3階には、講演会やコンサートに使える席数205のオーディトリウムがあります。2階にも会議などに使えるボールルームが3部屋あります。新しいフィットネスセンターは、「スタジオ1」と「スタジオ2」に分かれており、スタジオ2はアップライトピアノが設置され、防音設備が備わっています。ここでは、音楽同好会、和太鼓同好会、二胡同好会などが活動しています。その他、クラスルームや調理室、和室や茶室などもあります。娯楽室としては、カラオケルームやジャックポットルーム、マージャン室などがあります。レストランとしては、3カ所あってメニュー価格が市販より低額に抑えてあります。また、日本の食材などが揃うクラブショップもあります。古本市では、数年で帰国される人から無料で提供されたたくさんの本が、たった10冊1ドルで販売されます。

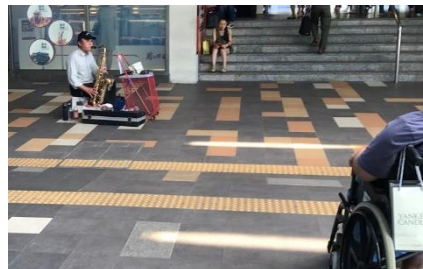


シンガポール便り 183

2017年9月30日 三好 隆志

年金制度

シンガポールには、日本のような「公的な年金制度」も「国民健康保険」といった医療保険もありません。では、引退後の生活あるいは、病気やけがをした時は一体どうすればよいのでしょうか？シンガポールには、日本の年金や国民健康保険の代わりに、政府が管理する「CPF=Central Provident Fund（中央積立基金）」というものが存在します。簡単に言ってしまうと、政府が管理する強制積み立てです。2016年1月からの、CPFの積立額は、一般企業に勤める55歳以下の労働者の場合、雇用者側：20% 被雇用者側：17%となっています。給与の40%近くにあたる額を、毎月強制的に積み立てているという事です。日本の年金制度は一度すべての年金を基金に集め、年金の受け取り年齢になった日本国民に配分します。シンガポールのCPFの場合は、受取人はあくまでもCPFの支払いを行った個人です。自分の年金は自分で稼いだ分だけです。日本の年金制度のように不公平が生じる事はありません。積み立てた分は、原資となる最低金額「ミニマム・サム」(2015年7月から16万1,000Sドル、約1,237万円)を残せば、55歳から引き出すことができます。CPFのデメリットとして挙げられるのが、平均寿命を越えて長生きした場合に生活資金が足りなくなる恐れがあるということです。また、物価が上昇することで、資産の価値が相対的に下がり、老後の生活が苦しくなることもありえます。DBS銀行が、今年2月に発表したシンガポール人とPR保有者の老後の生活に関する意識調査を見ても、2015年11月時点で老後の生活について十分な蓄えがあると答えた割合は、調査対象の約1,000人のうち36%にとどまっていた。また、回答者のうち30%は、定年退職後に生活水準を落とす必要があるだろうと答えていたそうです。



肥満



シンガポールは、豊かな国であるからかもしれませんが、肥満の人が多く感じていました。健康促進局（HPB）によると、2016年までの15年間でシンガポール人の平均体重が3kgも増えたようです。30代の肥満率は、男性42%、女性28%にも上ります。ローカル校を訪問すると、子どもの肥満率は日本と変わらないように感じていましたが、10~15%程度でおおむね横ばいだそうです。原因の一つとしては、ホーカーセンターなどの外食が非常に多いからようです。ちなみに、日本では厚生労働省「国民健康・栄養調査報告」によると、2015年に日本人の肥満の割合は男性28.4%、女性18.7%となっていました。